

しくじ・る〔他ラ五（四）〕

①物事をしそこなう。やりそこなう。失敗する。

*浄瑠璃・夏祭浪花鑑（1745）九「アアしくぢつてのけて様子は知れぬ。あの躰（てい）ならば九郎兵衛は此内に居らぬであろ」

*滑稽本・八笑人（1820-49）三・上「其次に野呂まがしくじったもんだから」

*草枕（1906）〈夏目漱石〉五「とかくしくぢるなあ女だから」

②過失などがあって店（たな≡勤務先）の出入りを止められたり解雇されたりする。勤めを失敗する。お出入り禁止となる。

*雑俳・柳多留一四（1769）「御妾が何をつげたかしくじらせ」

*咄本・譚囊（1777）和藤内「国性爺の和藤内は、どうでも日本をしくじって追出され、唐（から）へ行たやつと見へる」

*滑稽本・東海道中膝栗毛一発端（1814）「親方の金をちつとばかりつかひこんだといふことだ。其尻がわれると。しくじるはあたりまへだが、ここでしくじっては理屈のわりいことがあるといふ」

*怪談牡丹燈籠（1884）（三遊亭円朝）九「孝助を追ひ出すか、仕損（シクジ）らする様に種々工央を凝（こら）し」

③機嫌をそこねる。気分をこわす。

*人情本・春色梅美婦禰（1841-42頃）三・一四回「私も小三も親父の前を仕損（シクジツ）てネ」

*安愚楽鍋（1871-72）〈仮名垣魯文〉二・上「茶屋しゅにやあいそをつかされる、お客はしくじってしまふし、四年ごしい人にとってゐた作さんまでなくなして」

*懺（1911）〈徳田秋声〉一九「笹村は些とした女の言草に、自分の気持を頓挫（シクジ）ると、暫く萎されてゐた女に対する劇しい憎悪の念が」

《語源説》（1）シクジクル（為挫）の略か〔大言海〕。（2）シクジル（為扶）の義〔和訓

栞〕。（3）シクヅル（為崩）の略〔菊池俗言考〕。（4）ナシクジケルの略〔貞丈隨筆〕。

《発音》へなまりシクル〔周防大島〕シコジル〔津軽語彙〕スクズル〔千葉〕シユクネル〔栃木〕

【参照辞典】

日本国語大辞典 第二版 第三卷

2001年3月20日 第2版第3巻第1刷発行

発行所…小学館